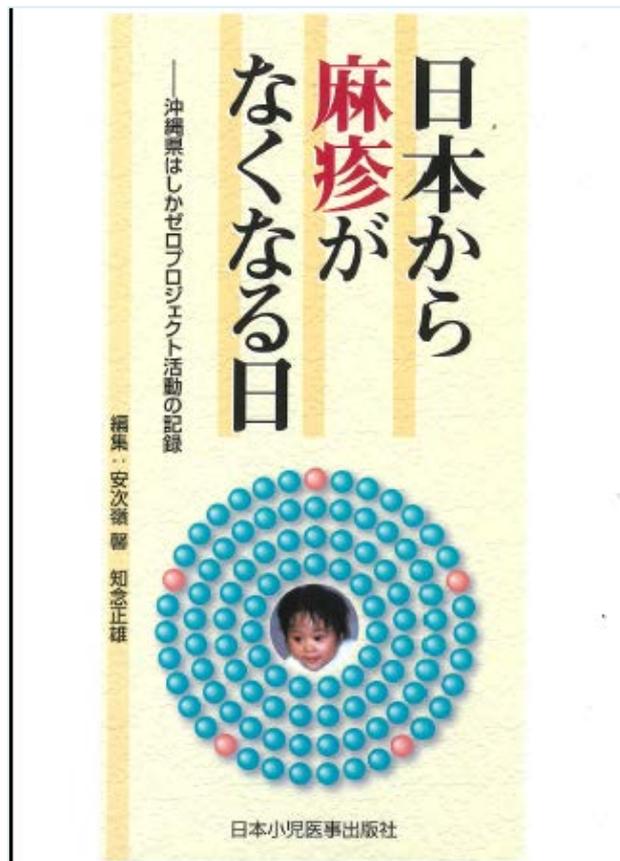
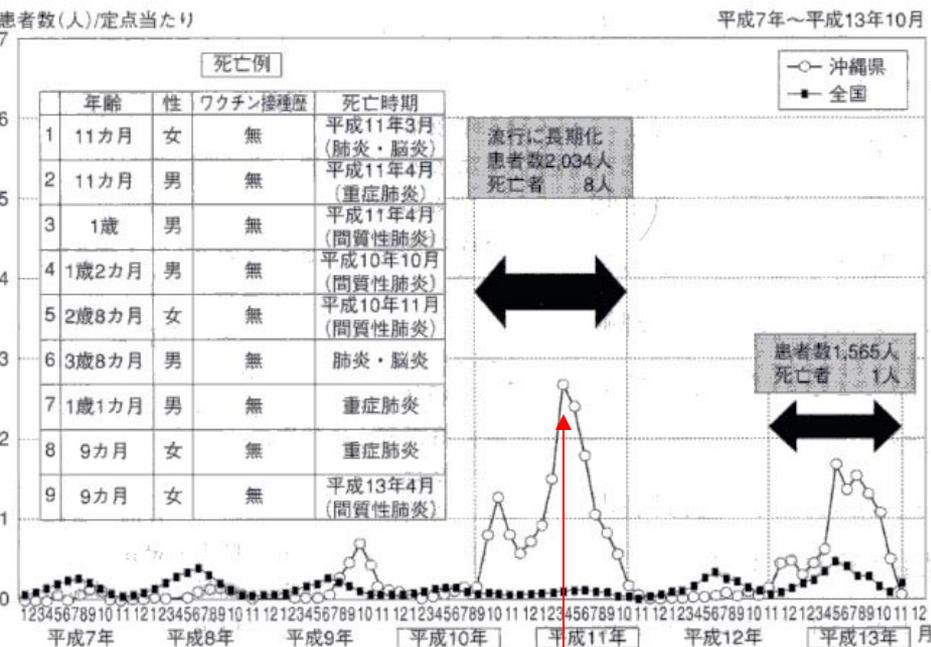


沖縄県における麻疹の流行と対策 2018年



沖縄県保健医療部
系数公(保健衛生統括監)

流行が続くと乳児が犠牲になるという経験



⌘ 一人の患者から最大20名に感染させる

⌘ 潜伏期間は約10日

⌘ 最初はカゼ症状と似ている。その後、高熱や全身発疹が出現

⌘ 肺炎や脳炎を合併すると重症化する例も

⌘ 流行当時1歳ワクチン接種率は約70%

流行の長期化により、患者数2034人、死亡者8人
(沖縄県:平成10～11年)

沖縄県はしか"0"プロジェクト活動

1999～2001年:県内ではしかが流行し、9名の乳幼児が死亡

沖縄県はしか"0"プロジェクト委員会(2001-)

二大戦略

2001年～
1歳における麻しん予防接種率を95%に引き上げる

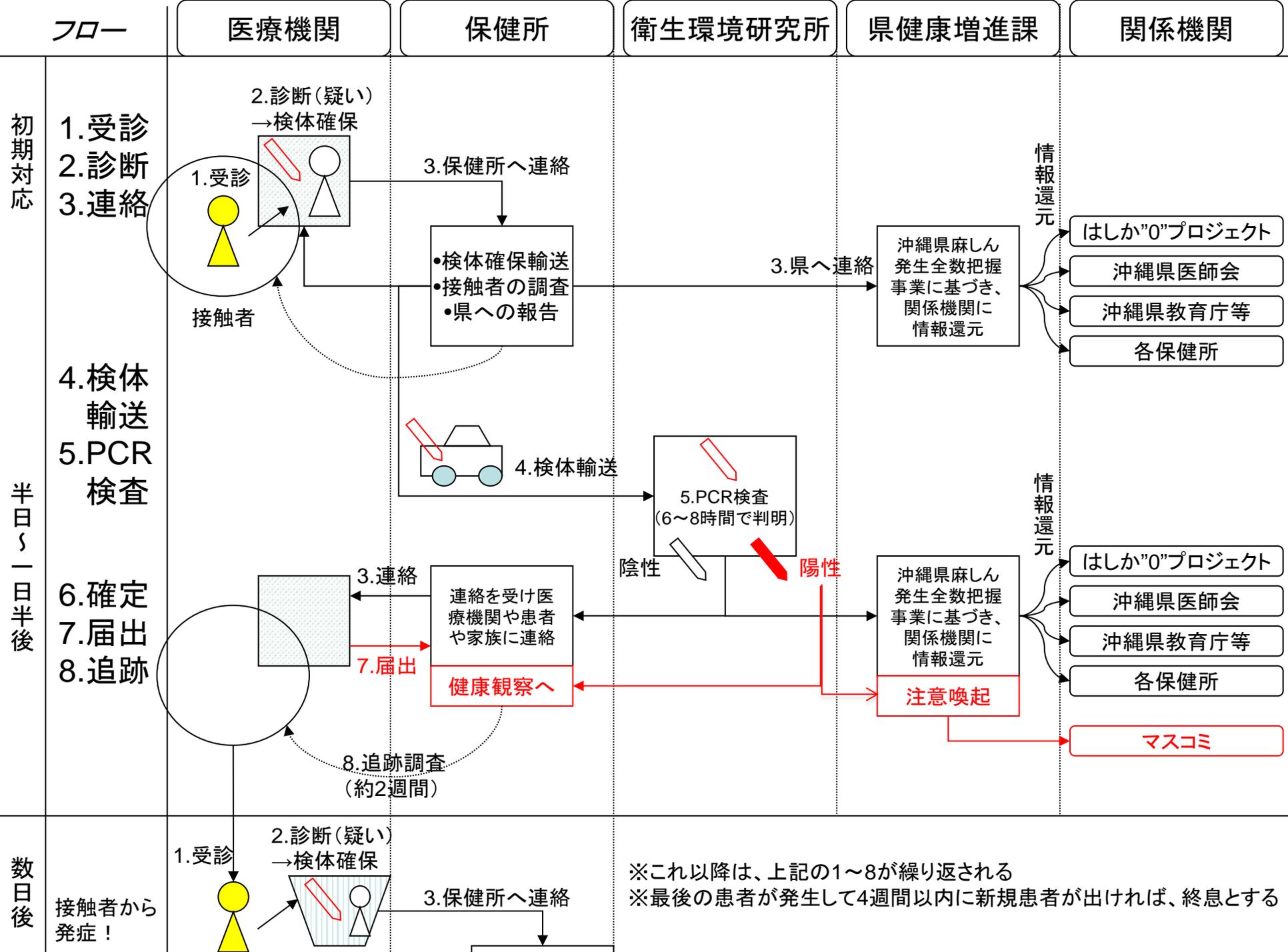
2003年～
全数把握制度の創設(疑い例を含め、診断した医師は直ちに保健所に報告)

2009年9月以降、土着の発生例なし

その後の国の対策

- ワクチン接種回数: 1回→2回(2006)
 - ワクチンキャッチアップ期間(2008-2012)
- 届出、検査体制の充実(2008)
 - 定点報告から全数報告へ
 - 臨床診断に加えて検査診断も推奨

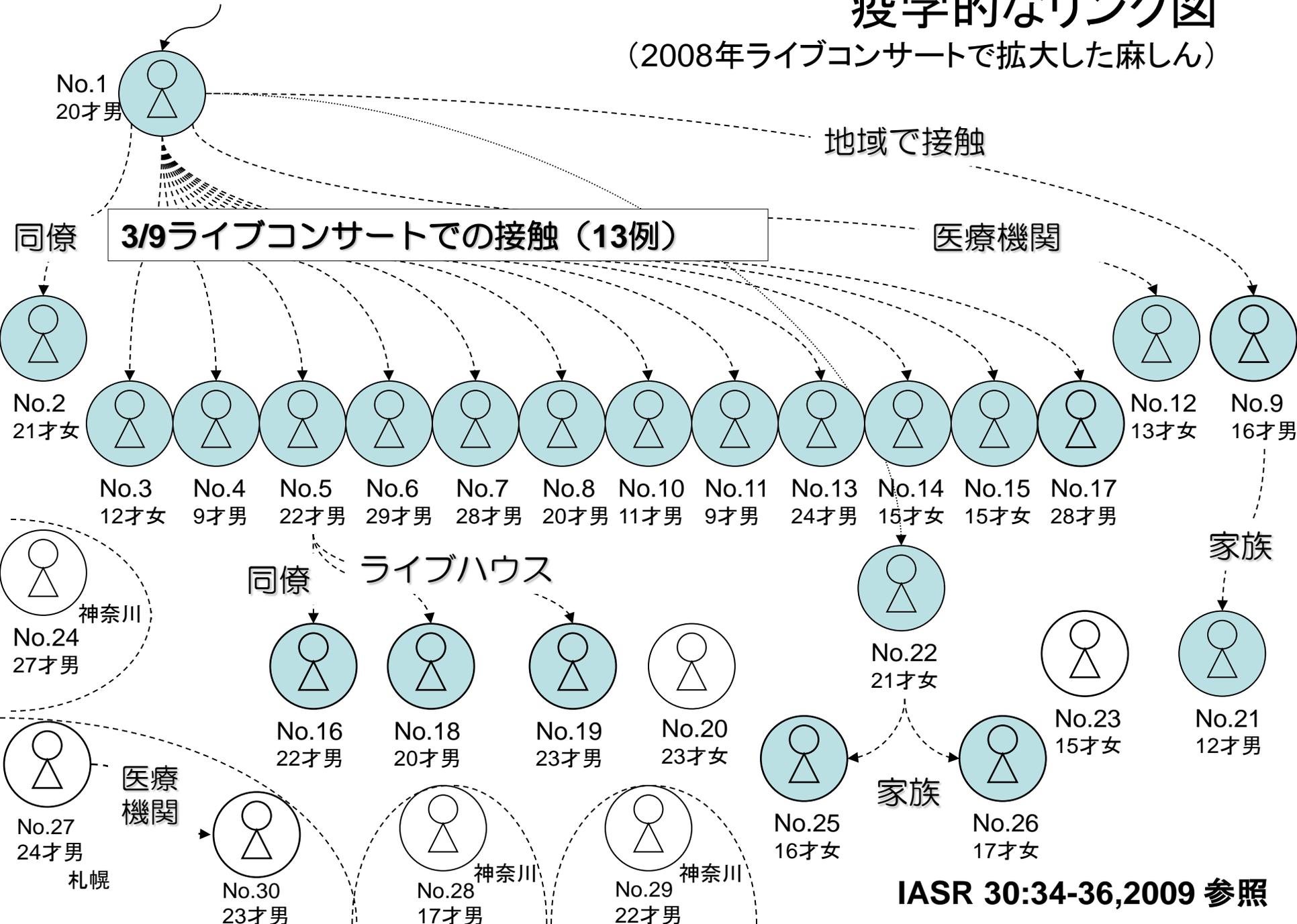
2015
日本が排除状態であると認定(WPRO)



県外旅行中に感染（東京大阪名古屋）

疫学的なリンク図

（2008年ライブコンサートで拡大した麻疹）



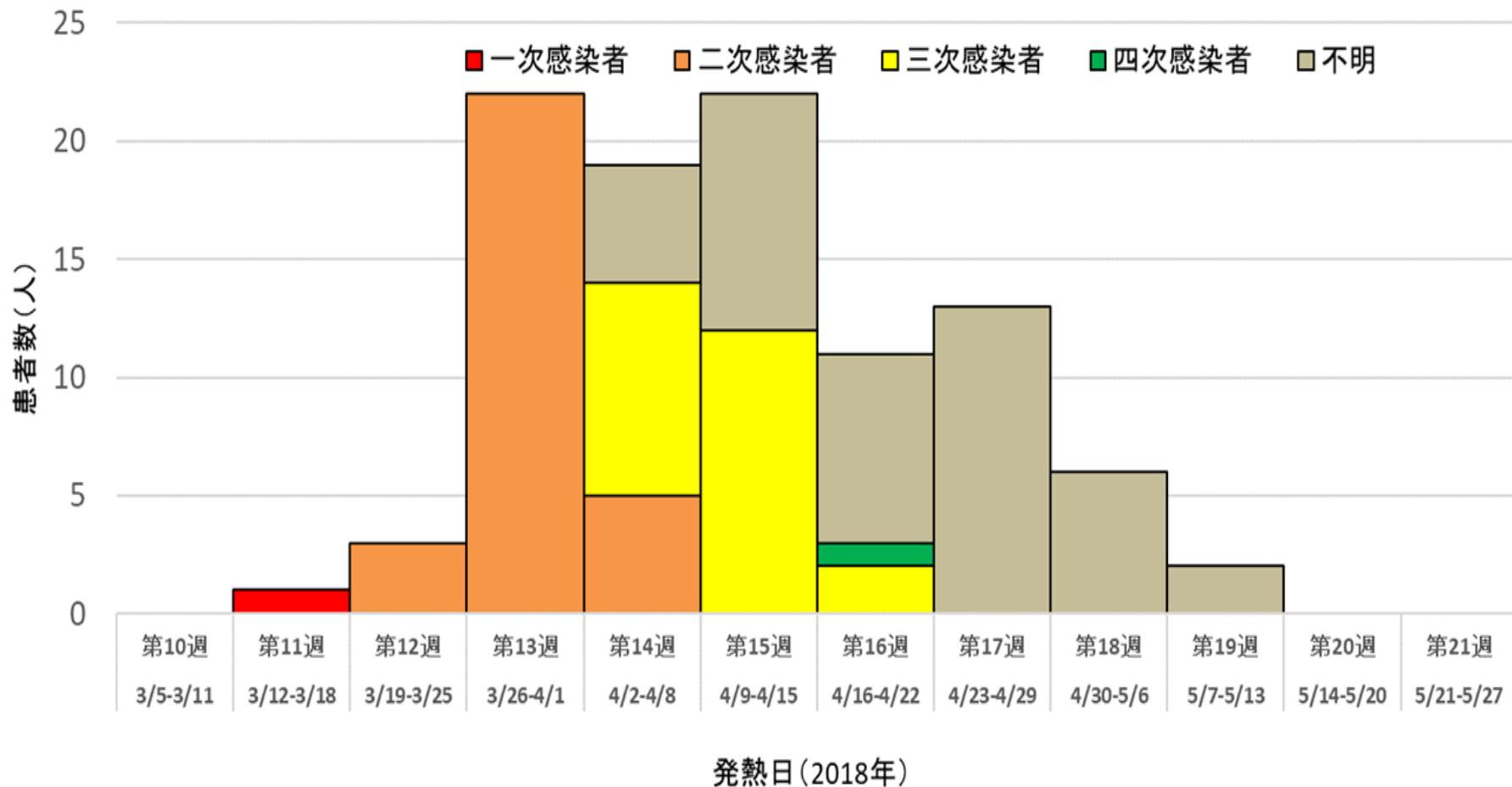
IASR 30:34-36,2009 参照

2018年3月に4年ぶり麻しん患者の報告

- 初発例は台湾から旅行中の30代男性
- 県内各地を旅行して感染が拡大
- 初めてのフェーズ3（リンクが追えない状態）
- 流行の中心は20～40代の成人
- 県外にも輸出
- 重症例は1例のみ
- 乳児へのワクチン接種も全市町村で実施
- 観光客のキャンセル対応等に追われる
- 5月15日までに99例の感染が確認
- 6月11日に終息宣言（その後臨床診断例2例追加）

図1: 沖縄県麻疹流行曲線(発熱日・感染次別)

2018年5月27日現在(n=99*)



*医療機関で確認された4名を含む

*発熱日が確認できない5名については、検体採取日の前日を発熱日とする。

2018年春の麻疹流行を振り返る(一覧)

	発生動向	検査・調査	感受性者対策	情報提供等
初期対応 3/14-3/20	○初発例の報告	○積極的疫学調査実施 ・行動歴の確認 ・接触者リストアップ ・追跡調査		○患者情報公表 ・マスコミ第1報 ・退院後の受入先確保に苦慮
二次感染拡大 3/21-4/3	○初発例から感染拡大 ・二次感染 29例 ・三次感染 1例 レベル3状態と判断!	○積極的疫学調査を一部縮小 ・患者家族中心 ・修飾麻疹は省力化	○6~12ヶ月未満児への接種への助成 ・ワクチン在庫の確認 ・財政部局と調整 ・市町村に働きかけ	○保健所担当者会議 ○健康危機管理対策会議の開催 ・マスコミ第2~4報
本島内感染拡大 4/4- 4/17	○本島内さらに感染拡大 ・三次感染 26例 ・リンク不明 13例 ○修飾麻疹の増加 ○県外に飛び火!	○疑い例の検査も増加 ・「検体の搬送が大変」 ・抗体検査での診断 ○疫学調査は縮小	○全市町村で乳児接種を実施する体制 ○在庫及び払い出しモニタリング開始 ・接種状況の推定	○沖縄麻疹エキスプレス発行 ○緊急アピール ○各種Q&A作成 ○記者ブリーフィング ・担当課の混雑緩和
県全域~本土へ 4/18- 5/ 1	○感染拡大続く(宮古も) ・四次感染 2例 ・家族や職場等 9例 ・リンク不明 14例 ○ICU入院(重症) 1例	○衛生環境研究所における検査機能の拡充 ○検体搬送について医師会に協力依頼	○他県では品薄との情報が入る ○ワクチン接種後の症例報告が増加	○幹部会議で報告 ○電話相談急増 ・県外からの問合せ ・観光部局との連携
終息まで 5/ 2- 6/11	○4例発症(ピーク過ぎる) ○最後の患者が受診した5/11を起点に4週間新たな患者発生なし→6/11終息	○終息に向けて積極的疫学調査を強化 ・しっかり追跡 ○検査総数は584例	○4月の接種状況 ・乳児38.6% ・Ⅰ期倍増 ・Ⅱ期前年半年分	○はしか0キャンペーンで国際通りを行進 ○観光部局と合同で終息記者会見

初発例(台湾人30代・男性)

- 3月1日～4日:タイへ旅行
- 3月14日:台湾で発熱
- 3月17日:台北よりタイガーエア—230便にて那覇着。ゆいレールを利用して那覇市内(国際通りとその周辺～新都心)観光(那覇泊)
- 3月18日:ゆいレールを利用しレンタカー店へ移動。糸満市、北谷町を観光。(うるま市宿泊)
- 3月19日:レンタカーを利用し今帰仁村、名護市内およびうるま市等を観光。発疹出現。夜間自ら中部保健所管内の医療機関受診し入院。
- 3月20日:当該医療機関から中部保健所へ麻しん・風しん疑いの報告があり、衛生環境研究所にて検査を実施した結果、麻しん陽性が判明した(3/22遺伝子型D8)

次々と患者が報告され、レベル3へ

- 沖縄県麻疹発生時対応ガイドラインにおける定義
 - － レベル0: 県内で患者が発生していない状態
 - － レベル1: 県内で確定例、疑い例を問わず、発生報告があった場合
 - － レベル2: 県内で4週間以内に複数の患者が報告される場合
 - － レベル3: レベル2に引き続き感染が拡大し、県内に流行の兆しが見られる場合
- 4月2日夜沖縄県はしか”0”プロジェクト委員会緊急会議において決定
 - － 4月3日の公表時点では12例の麻疹患者
 - － 全市町村において「生後6ヶ月～12ヶ月未満児への予防接種勧奨・公費負担を検討する」

乳児接種への助成

- 市町村が行う乳児(6~12ヶ月未満児)ワクチン接種費用の一部を助成を公表(4月6日)
 - ワクチン確保の調整
 - 全市町村で実施
- 助成期間は4月~6月
 - 接種数8,062人(68.2%)
- 0歳でのワクチン接種は緊急避難的な措置であり1歳になったら定期(1期)を受けることを啓発

はしか感染拡大21人に 県、乳児接種の半額助成

県地域保健課は5日、新たに男女3人の麻疹(はしか)感染を確認したと発表した。県内で4年ぶりの患者が3月下旬に判明して以来、患者数は計21人になった。感染拡大を受け、県保健医療部は、無料で受けられる定期予防接種(第1期・1歳、第2期・小学校就学前の5歳以上7歳未満)の対象外になっている6カ月~1歳未満に対しても、ワクチン接種費用の一部を助成する方針を決めた。(35面に関連)

那覇、石垣市は無償化

新たに感染が確認されたケースもあり、対策が急務なのは県内に住む20~40代男となつている。那覇市と石垣市は、6カ月~1歳未満の子はしかは乳幼児がかかると重症化すると死亡するの乳児への予防接種を、県

はしか患者の行動歴

台湾の30代男性	3月17日(土)	国際通り、那覇市新部心地区
男児	18日(日)	国際通り、糸満市西崎、北谷町美浜
0歳	19日(月)	今帰仁村古宇利島、名護市内
男児	24日(土)	那覇市新部心地区
男児	25日(日)	国際通り
男児	26日(月)	国際通り及び近辺
男児	27日(火)	国際通り及び近辺
男児	26日(月)	国際通り及び近辺
男児	27日(火)	国際通り
男児	28日(月)	午前9時半~11時ごろ那覇空港国内線
女児	26日(日)	国際通り

の補助も含めて全額公費で負担し、無償化することを決めた。石垣市は7日に集団予防接種を実施する。

はしかを防ぐには2回の予防接種が有効で、定期予防接種の期間内であれば原則として全額公費で負担される。ただ、この時期を逃すと個人で受けなければならず、基本的には自己負担になる。はしかと風疹の混合ワクチン(MRワクチン)は1回約1万円、はしか単独のワクチンは約5千円を要する。

県は6カ月~1歳未満の対象者を約8500人と見込んでいた。6月までに実施した分の半額を補助する方向で調整している。残りはその市の町村が対応を決める。

県によりますと、生後しばらくは母親から移行した抗体があるが、6カ月を過ぎるとなくなる。そのため生後6カ月以降は、病気にかかりやすくなるという。県保健医療部の砂川靖部長は「心配した保護者からの問い合わせが増えている。補助によって金銭面の不安を取り除き、積極的に受けるよう勧めたい」と話している。

患者↑検査↑↑となった時の対応

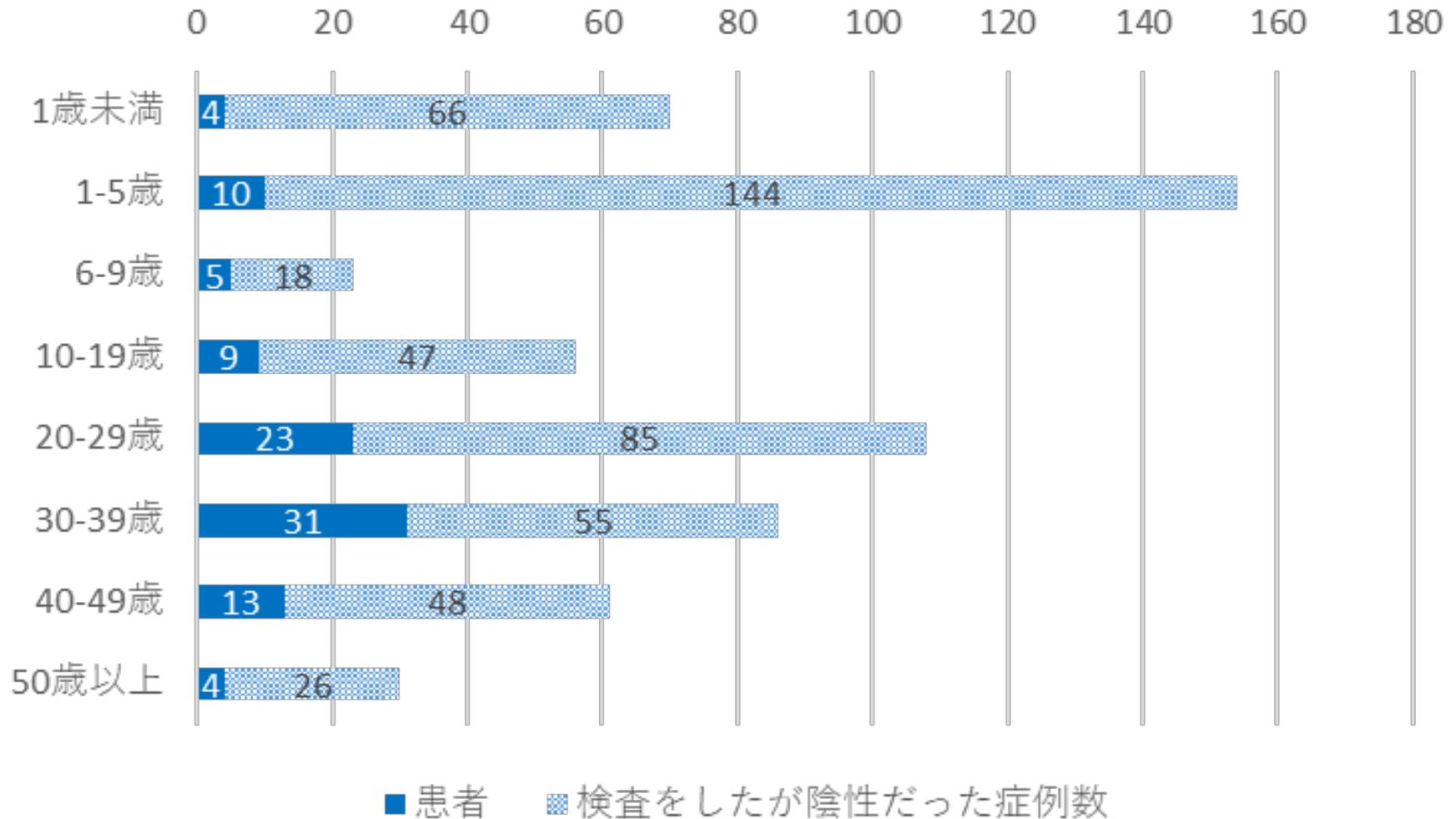
「追跡調査をしても感染拡大防止に効果を示さないと判断した時は保健所は積極的疫学調査を中止する」(ガイドライン:レベル3の対応)となっていたが、疫学調査のどの部分を省力化できるか検討する必要がある。

患者・検査数



日時

「患者(n=99)」と「疑って検査をしたが陰性だった症例(n=477)」の年代別分布

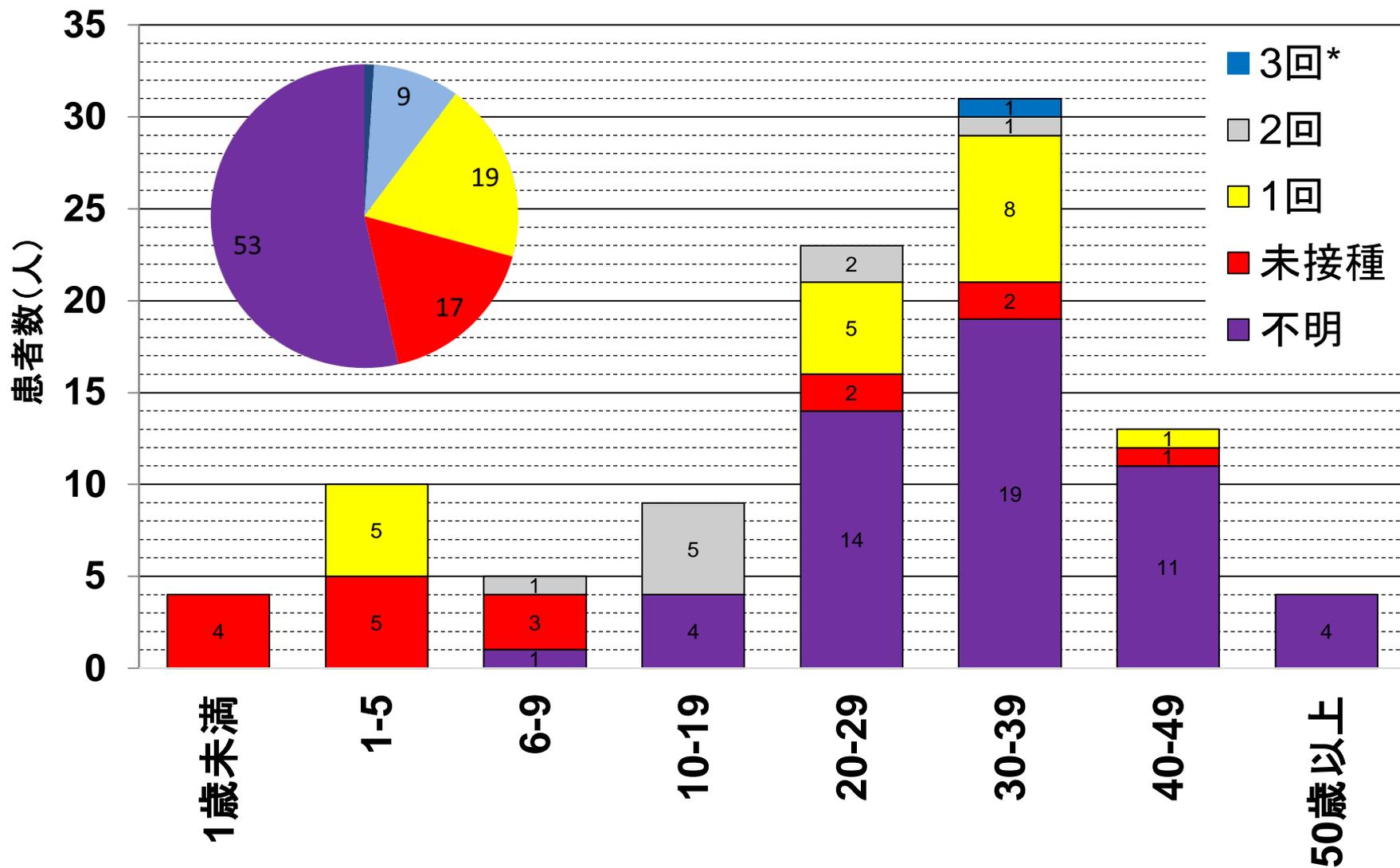


関係者への情報提供

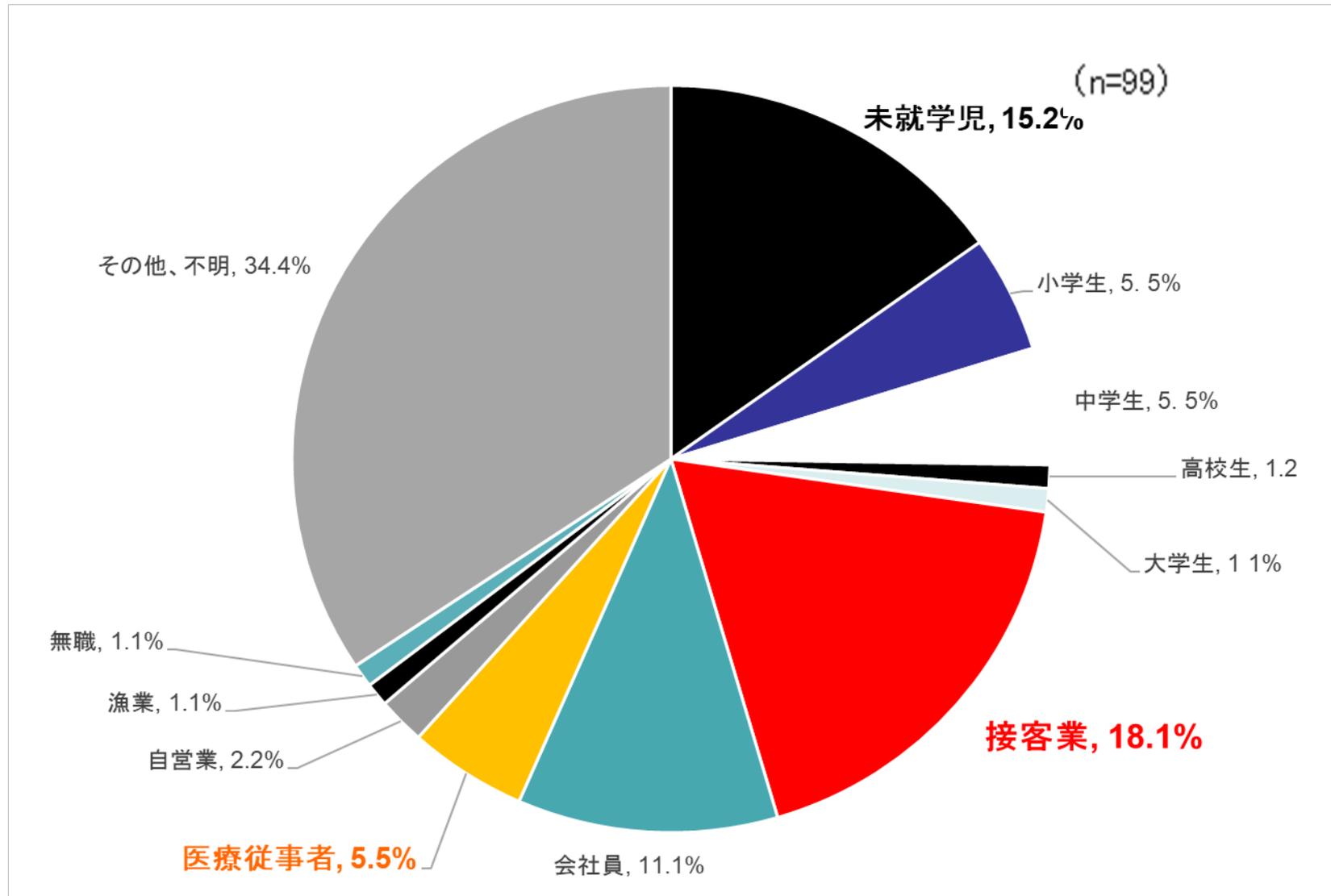
- 医療保健関係者や健康危機管理対策委員等の関係者向け
 - － 沖縄麻しんエクспレスの発行(No.1～No.47)
 - － 各種Q&Aの作成に医師会等が協力
 - － 流行状況リスクアセスメント(感染研の協力)
- 一般県民向け
 - － はしか0プロジェクト委員会と緊急アピール(4月11日)
- マスコミへの定期的な情報発信
 - － 記者ブリーフィングの定時開催(4月17日～5月29日)
- 旅行予定者からの問合せ
 - － 観光部局との連携して対応

患者の年齢分布とワクチン接種歴

2018年6月3日現在 (n=99)



麻しん患者の職業(n=99)



5月以降は報告は減少

- 終息に向けて積極的疫学調査を強化
– レベル2と同様の対応を実施
- 5月11日(最後の患者の接触)以降、4週間以上、新たな患者発生が認められないことを確認
- 6月11日に観光部局と合同で終息宣言



5/13 はしか風しん“0”キャンペーンで
国際通りトランジット・モールを行進

今回の流行でみえてきた課題

- 定期予防接種率95%を目指した取り組み
- 成人(特に20-40代)の2回目接種の実施
 - 接客業、観光産業従事者、医療従事者など
 - 費用負担が課題
- 流行拡大時の対応について
 - 行動範囲が広い...
 - 疫学調査で省力化できることとできないこと
 - 観光を含めて社会生活への対応
- 対応ガイドラインや全数把握要項の整理